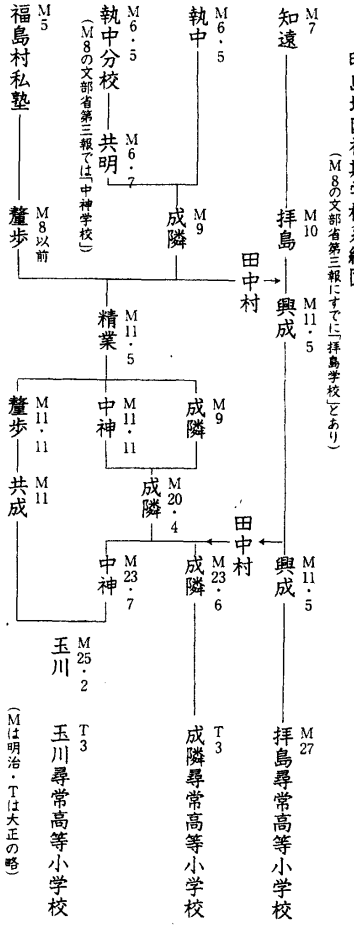
ぶらりわが街宮沢界隈

(12) 近代学校の第一号ー成隣小学校

成隣(せいりん)小学校(大神町4－4－1)は、「一石を池水に投ずれば波紋を生ず。今ここに一校を成す。教化必ず四隣に及ばん。」が校名の由来。

明治政府は、明治5年(1872)近代的な国家をつくるための一環として、学校の制度の基本を定めた法令を出した。国民のすべてが学校で学ぶことを目指すものでした。翌年同6年(1873)5月、大神村に近代学校の第一号になる「執中舎(しっちゅうしゃ)」が開校された。「後の成隣小学校の創立」。設立したのは、大神村の豪農中村半左衛門で、屋敷内の家作(かさく)を利用して寺子屋を開き、子弟の教育をしていて、学制が公布により、小学校をつくることの大切さを強く感じ、世話人となって働き大神村「観音寺」を借りて開校。明治9年(1876)3月、「共明(きょうめい)」(前執中舎分校)と合併し、宮沢村「阿弥陀寺」を借り「成隣学校」と称していた。しかし、その後の経過をたどると、短い期間に、複雑な形で分裂や統合を繰り返すという歴史があり、「拝島」、「成隣」、「玉川」の三つに安定するのは、明治後半になってからです。

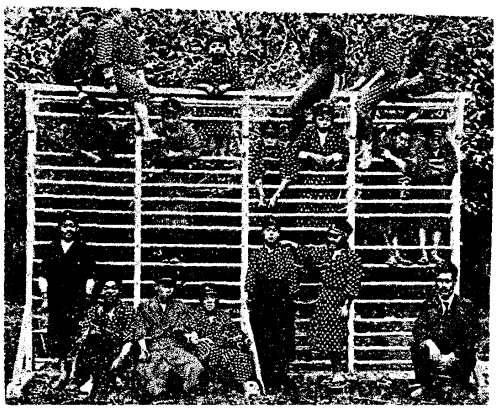


「執中舎」の発足当時は、学校後見職(今の校長)・読書教師・習字教師・算術教師の4人で、明治7年(1874)には、教員男子2名、生徒は男子52名、女子18名でした。学校ができたものの、まだ就学する生徒は少なく、特に女子にその傾向が強かった。それは、授業料徴収(明治7年月平均4銭3厘)があり現金収入の乏しい家庭の負担と、女性に教育を受けさせるなど必要がない、といった考えの時代であったため、就学率はなかなか上がりませんでした。明治33年(1900)小学校令改正により、授業料が免除になり、多くの子供たちは学校へ行って勉強が出来るようになり、女子の就学率も男子と同じようになりました。

昭島地域での本格的な校舎の建設は、成隣小学校が最初でした、明治26年(1893)10月、文部省の設計に従った、建坪75坪の校舎が完成。この建設費800円は、全て村の有志による寄付で建てられました。大正3年(1914)高等科が設置され「成隣尋常高等小学校」に改称。昭和22年(1947)小学校令施行により、「成隣小学校」に改称、高等科の児童は「昭和中学校」へ移る。昭和32年(1957)4月成隣分校独立、「光華小学校」となる。昭和48年(1973)には創立100年周記念碑を建立。平成15年(2003)には創立130年周年記念式典を挙行している。

○　近代学校の第一号である成隣小学校は、歴史の舞台に登場しています。ー①　昭和20年(1945)8月24日の八高線多摩川鉄橋上での正面衝突大惨事では、負傷者の緊急治療場所に教室が使われた。　②　昭和36年(1961)8月20日、八高線多摩川鉄橋下流でアキシマクジラの化石が発見され、あき教室で復元作業が行われ約1年後の37年(1962)8月23日完成した。

記　　防犯宮沢支部会計　西山　禎一


戎隣小学校

成隣小学校の木造校舎